

【がん種】 **大腸癌**  
【レジメン名】 mFOLFOX6+Bmab  
【登録番号】 160513  
【1コースの期間】 2週間  
【総コース数】 進行・再発:PDまで  
【催吐性リスク】 中等度:エルプラット、軽度:5-FU、最小度:ペバシズマブ  
【抗がん剤の組織障害性】 イリタント(炎症性):エルプラット(漏出時の冷却禁止)、5-FU、ノンビシカント(非壊死性):ペバシズマブ  
【投与量に制限のある薬剤】 なし  
【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、注入に伴う反応、アレルギー反応、疲労、間質性肺炎、高血圧、蛋白尿、出血、血栓塞栓症、創傷治癒遅延、消化管穿孔、悪心、嘔吐、食欲不振、口腔粘膜炎症、味覚異常、下痢、便秘、末梢性感覚ニューロパチー、末梢性運動ニューロパチー、注射部位反応  
【必要な検査】 編集中  
【根拠論文】 J Clin Oncol 26:2006-2012, 2008. J Clin Oncol 26:2013-2019, 2008. J Clin Oncol 25:1539-1544, 2007.

【点滴の時間】 [day1~]初回51時間5分、2回目50時間35分、3回目50時間5分  
【費用】 編集中  
【その他】 対象患者:大きな手術後から28日以上経過している、2.5mL以上の鮮血の喀血がない。原則、CVポートを増設して治療を行う。

インフューザーポンプの使用可否:CVポートを造設している、外来で治療する場合(入院導入後に外来へ移行する場合には初回入院時でも使用可能、外来に移行せずに入院で治療を継続する場合には使用不可)。

インフューザーポンプ使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	生理食塩液 100mL アロキシ静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 フィルター使用	○				
3	生理食塩液 100mL ペバシズマブBS点滴静注「ファイザー」 初回90分、2回目1時間、3回目~30分	1 B 5 mg/kg	側管	フィルター使用	○				
4	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 5のエルプラットと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
5	5%ブドウ糖液 250mL エルプラット点滴静注液 4のレボホリナートと同時に開始	1 B 85 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
6	生理食塩液 50mL 5-FU注	1 B 400 mg/m2	側管	全開 フィルター使用	○				
7	5-FU注	2400 mg/m2	側管	46時間 インフューザーポンプ使用	○				
8	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○		

インフューザーポンプ未使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	生理食塩液 100mL アロキシ静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 フィルター使用	○				
3	生理食塩液 100mL ペバシズマブBS点滴静注「ファイザー」 初回90分、2回目1時間、3回目~30分	1 B 5 mg/kg	側管	フィルター使用	○				
4	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 5のエルプラットと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
5	5%ブドウ糖液 250mL エルプラット点滴静注液 4のレボホリナートと同時に開始	1 B 85 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
6	生理食塩液 50mL 5-FU注	1 B 400 mg/m2	側管	全開 フィルター使用	○				
7	生理食塩液 500mL 5-FU注	1 B 2400 mg/m2	側管	46時間 フィルター使用	○				
8	生理食塩液 100mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
9	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後	○	○			